

証券コード：7226

極東開発工業株式会社



第84期 期末決算のご報告

2018年4月1日～2019年3月31日

IR REPORT



トップメッセージ

株主の皆様におかれましては、ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

2018年4月1日から2019年3月31日までの当社第84期営業の概況についてご報告申し上げます。

■ 2019年3月期の概況

当連結会計年度における我が国経済は、設備投資の増加や雇用・所得環境の改善に伴い緩やかな回復基調で推移した一方、相次いだ自然災害や、海外における米中貿易摩擦及び英国のEU離脱問題など、懸念材料を抱えながら推移しました。

このような状況下、当社グループは中期経営計画 2016-18 ~Value up to the Next~ (2016年4月1日~2019年3月31日)の最終年度として、収益基盤の強化と企業品質の向上に向けた各種施策に継続して取り組みました。

この結果、当連結会計年度の業績は前連結会計年度と比較して、売上高は1,610百万円(1.4%)増加して114,301百万円となりました。営業利益はコストアップ等により1,691百万円(16.5%)減少して8,554百万円、経常利益は1,512百万円(14.6%)減少して8,817百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は905百万円(12.6%)減少して6,284百万円となりました。



■ 今後の見通し

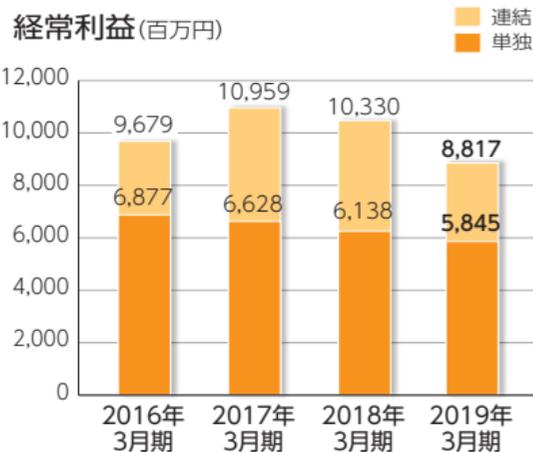
我が国経済は、2019年10月に予定されている消費税増税の影響が見込まれるほか、海外における政情不安などから、厳しい環境で推移することが想定されます。

当社グループは、新中期経営計画（3カ年計画）2019-21 ～To the Growth Cycle～（2019年4月1日～2022年3月31日）の着実な実行により、「変化に柔軟に対応できる、グローバルな企業」に向け、生産性の向上と利益体質の強化、将来の収益源の創出及び、企業品質の向上と社会的価値の深化に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2019年6月 取締役社長 高橋和也

■ 業績ハイライト



新中期経営計画 2019-21 ~To the Growth Cycle~

当社グループでは、従前の中期経営計画2016-18 ~Value up to the Next~ が2019年3月期をもちまして計画期間の満了を迎えました。物流・環境系製品の受注確保、ストックビジネス・海外事業の拡大等の施策に取り組んだ結果、グループ業績目標のうち売上目標は達成することができましたが、売上構成の変化や原材料価格の上昇、固定費の高止まり等の影響により、利益率は低下し、営業利益目標は達成することができませんでした。

これらの課題を踏まえつつ、「変化に柔軟に対応できる、グローバルな企業」への成長に向けて、以下の通り新たな3カ年計画を策定いたしました。

計画名称 中期経営計画2019-21 ~To the Growth Cycle~
 計画期間 2019年4月1日~2022年3月31日 (3カ年計画)



基本方針

グループの目指す姿「持続的に成長し、広く選ばれるKYOKUTO」
となるために、以下の基本方針に取り組み、
未来に繋がる成長サイクルを構築します。

1 生産性の向上と利益体質の強化

収益基盤強化に向けた設備投資効果の最大化を図ります。
また、IoTやAI等の活用を進めるとともに、
より高付加価値・高品質な製品・サービスを提供します。

2 将来の収益源の創出

海外事業の収益基盤確立、新分野の事業確立等に向け、
グループの既存リソースやアライアンス、M&Aを活用しつつ、
積極的に経営資源を投入します。

3 企業品質の向上と社会的価値の深化

安全・コンプライアンスの徹底を基本とし、さらに、
働き方改革と従業員育成、事業を通じた社会貢献を推進します。

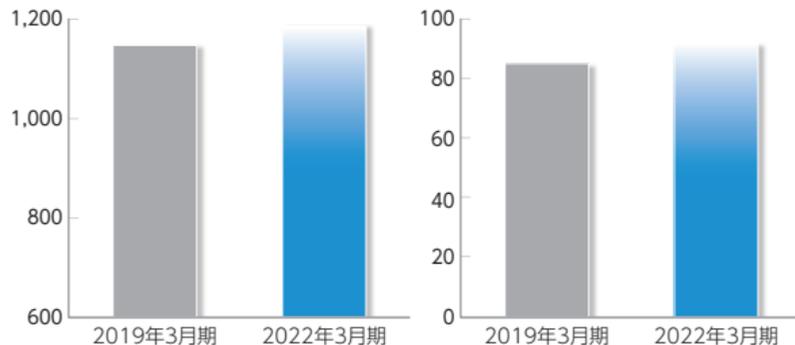
業績目標

厳しい市場環境の中でも既存事業の成長・充実で
以下の業績を確保

2022年3月期目標

連結売上高
1,100億円以上

連結営業利益
90億円以上



木質ペレットをエアの力で搬送!安全かつ効率的な作業を実現!

木質ペレットエア搬送ユニット 「JETCUBE (ジェットキューブ)」を発売

バイオマス燃料として利用されている木質ペレットをエアの力で搬送することが可能な、木質ペレットエア搬送ユニット「JETCUBE (ジェットキューブ)」を開発し、2018年11月より発売しました。

木質ペレットは近年バイオマス燃料として注目され、寒冷地を中心に冬季の暖房用燃料に利用されるなど今後の普及が見込まれる一方で、木質ペレットの輸送および貯蔵用サイロへの搬送にはクレーンを用いての作業が行われることが多く危険な高所作業を伴うほか、非効率な点が課題となっています。

ジェットキューブはそのような問題にお応えすべく、当社が長年トップシェアを誇る粉粒体運搬車（ジェットパック®）で培ったエア搬送のノウハウを用いて開発した新製品で、高性能なブロフによる搬送により、安定的かつ安全に木質ペレットを貯蔵用サイロに搬送することが可能です。

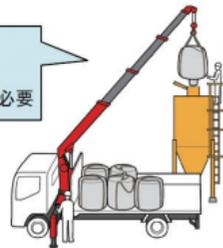


「JETCUBE (ジェットキューブ)」

現在の木質ペレットの供給作業

サイロに
クレーンが
届く場所が必要

高所での
荷ぼき作業
(危険)



ジェットキューブ使用イメージ



「つながる特装車（コネクティッドSPV）」に向けた取り組みを加速

IoT基盤を利用したサービス支援システム「K-DaSS」を開発

特装車の稼働状況を記録・蓄積するIoT基盤を利用したサービス支援システム「K-DaSS（※1）」を開発し、「K-DaSS」の構成要素の一つである「サービスツールシステム」を正式リリースしました。

「サービスツールシステム」では、当社および契約サービスステーションのサービスマンが、新開発の専用スマートフォン用アプリにより近距離無線通信機能を搭載した車両と通信することで、車両メンテナンスやデータ収集を行います。これにより、車両の状態をより正確に把握し、お客様に適切なメンテナンスをご提案することが可能となります。

極東開発グループでは、「K-DaSS」の構築および展開を通じて、「つながる特装車（コネクティッドSPV（※2）」に向けた取り組みを加速してまいります。



「K-DaSS」システム概要

（※1）K-DaSS：Kyokuto Data Sharing Service （※2）SPV：Special Purpose Vehicle

計量装置を搭載し積載重量を表示！定積載での安全運行をサポート！

「スケールダンプ」を開発

大煌工業株式会社、極東開発工業株式会社、大林道路株式会社は2019年3月、ダンプトラックのボデーに計量装置を搭載して積載重量を表示することを可能とした「スケールダンプ」を開発し、トライアル運行を行いました。

近年、安全指向やコンプライアンス重視の観点から過積載防止の活動や取締りがより一層強化される傾向にあります。

今回の新製品は、ダンプトラックのボデー前後に三点（前側に一点、後側に二点）のロードセル（計量装置）を搭載し積載物の重量表示を可能としたもので、過積載の防止を図り、車両の定積載での安全運行をサポートします。

今後はトライアル運行を通じて製品のブラッシュアップを行い、2019年夏頃の市場投入を目指します。



「スケールダンプ」(プロトタイプ)

路面に凍結防止剤を散布し、冬季のスリップ事故防止に威力を発揮！

「湿塩散布車」を発売



「湿塩散布車」

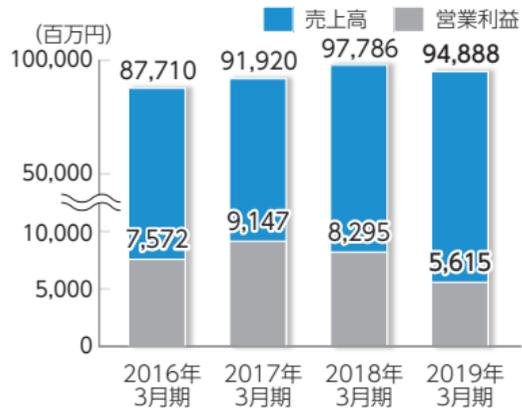
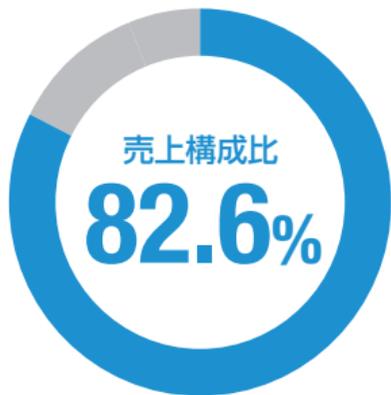
路面凍結による冬季のスリップ事故を防ぐための凍結防止剤を散布する「湿塩散布車」を開発し、2018年12月より発売しました。

湿塩散布車は、高速道路や自動車道等において降雪や寒冷による路面凍結を防ぐため、塩化ナトリウムと溶液を混合した凍結防止剤を散布する車両で、凍結に起因するスリップ事故を予防するために重要な役割を担っています。

当社が開発した新機種は、スタイリッシュさと外面に水や雪が溜まりにくい実用性を併せ持った当社独自の曲面タンクや、防錆性および耐腐食性を考慮したストローク計内蔵シリンダおよびステンレス製散布口のほか、操作パネルにディスプレイを採用し直感的な操作を可能とするなど、冬場の過酷な現場においても使いやすく、タフな作業を支援します。

■ セグメント別概況

〔特装車事業〕



30kL アルミタンクトレーラ

国内需要が堅調に推移する中、新規受注の確保を図るとともに、効率的な生産体制の整備と品質向上に努めました。

2018年5月には2t車級ごみ収集車の「プレスパック®」をフルモデルチェンジし、同11月には林業関連製品の「JETCUBE（ジェットキューブ）」を新発売しました。



新型2t車級 プレス式ごみ収集車「プレスパック®」

また、IoT基盤を利用したサービス支援システム「K-DaSS」の開発や、「2018年度グッドデザイン賞」を受賞した「4t耐摩耗鋼板仕様リヤダンプトラック」のPRなど技術開発及び販売促進等にも努めました。売上高は2,898百万円（3.0%）減少して94,888百万円となりました。営業利益は2,680百万円（32.3%）減少して5,615百万円となりました。

なお、2018年5月に北陸重機工業株式会社を完全子会社化し、鉄道車両分野に参入しました。

■ 国内普通トラック登録台数の推移

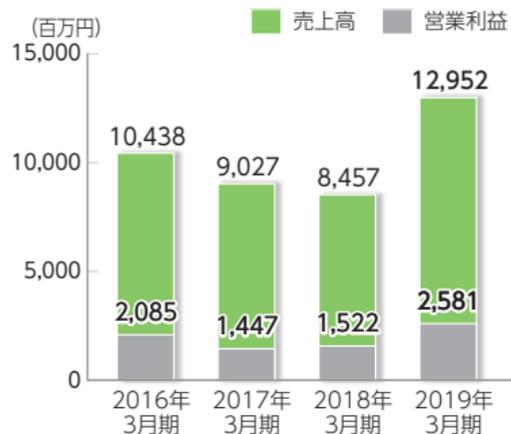


 GOOD DESIGN
AWARD 2018

4t耐摩耗鋼板仕様リヤダンプトラック

■ セグメント別概況

[環境事業]



リサイクルプラザ (那覇市)



移動式破砕機
(極東・トレマッシュ®)

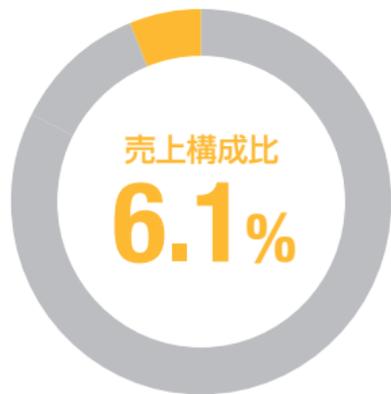
プラント建設では受注済物件の工事を進め、茨城県つくば市様より受注しておりましたリサイクルセンターが2019年3月に完成しました。また、メンテナンス・運転受託などストックビジネスにも引き続き注力しました。

バイオガスプラント事業においても、北海道豊浦町様より元

請第一号として受注しておりましたプラントが2019年3月に完成したほか、新たな受注に向けた活動を行いました。

これらの結果、売上高は4,494百万円 (53.2%) 増加して12,952百万円となりました。営業利益は1,058百万円 (69.5%) 増加して2,581百万円となりました。

[不動産賃貸等事業]



立体駐車装置
(レントウパズル® HS-22)



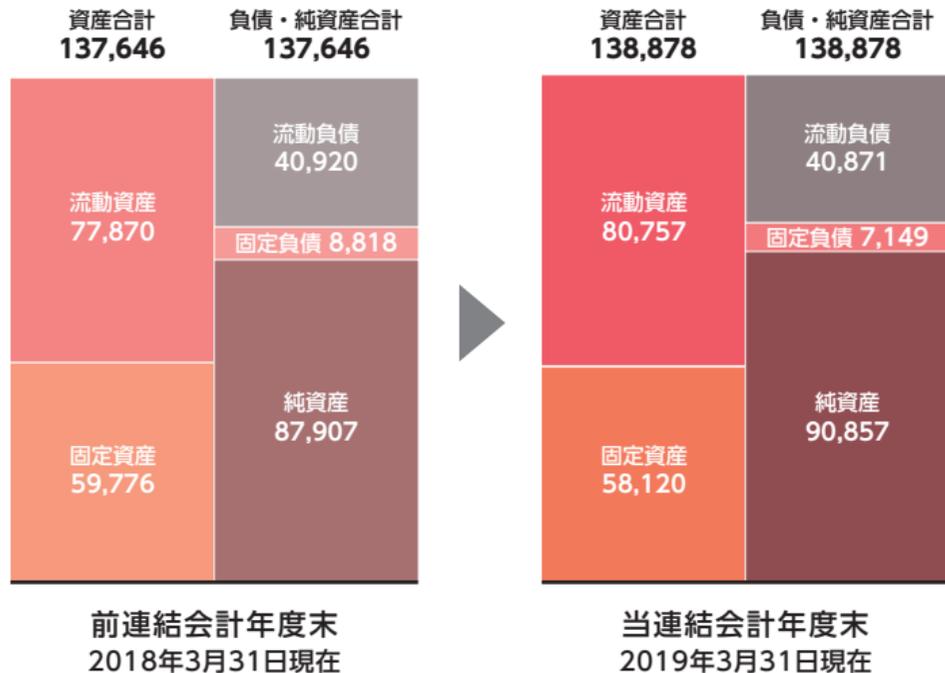
立体駐車装置
(地下パーク 3N)

立体駐車装置は新規物件の受注活動に加え、リニューアル・メンテナンスのストックビジネスにも継続して注力しました。コインパーキングは各事業地において採算性を重視した事業展開を行い、利益の確保を図りました。

これらの結果、売上高は51百万円 (0.7%) 減少して7,035百万円となりました。営業利益は5百万円 (0.5%) 増加して1,161百万円となりました。

■ 連結財務データ (日本基準)

連結貸借対照表の概要 (百万円)



〔「税効果会計に係る会計基準」の一部改正〕(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当連結会計年度の期首から適用しています。これに伴い、前連結会計年度の数値についても遡及して表示しています。

..... ポイント解説

当連結会計年度末の財政状態は、前連結会計年度末と比較して、総資産は1,231百万円(0.9%)増加して138,878百万円となりました。

流動資産につきましては、受取手形及び売掛金の増加等により2,887百万円(3.7%)増加して80,757百万円となりました。

固定資産につきましては、投資有価証券の時価の下落等により1,655百万円(2.8%)減少して58,120百万円となりました。

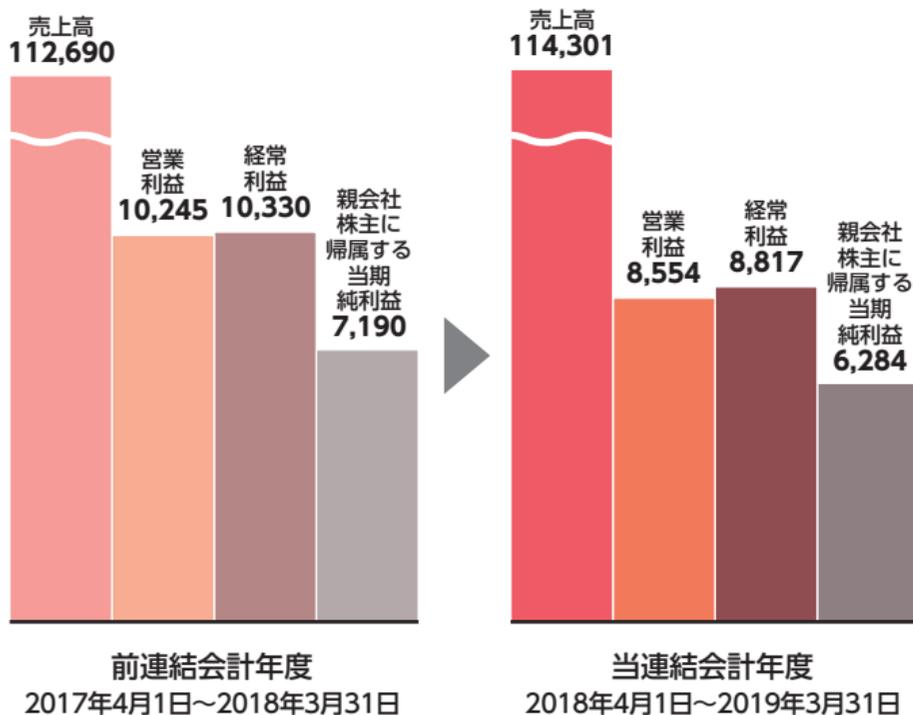
負債につきましては、流動負債は電子記録債務の減少等により48百万円(0.1%)減少して40,871百万円、固定負債は繰延税金負債の減少等により1,669百万円(18.9%)減少して7,149百万円となりました。

純資産につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益を計上したこと等により、2,949百万円(3.4%)増加して90,857百万円となりました。

なお、当連結会計年度末現在の自己資本比率は64.9%(前連結会計年度末63.2%)となりました。

.....

連結損益計算書の概要 (百万円)



..... ポイント解説

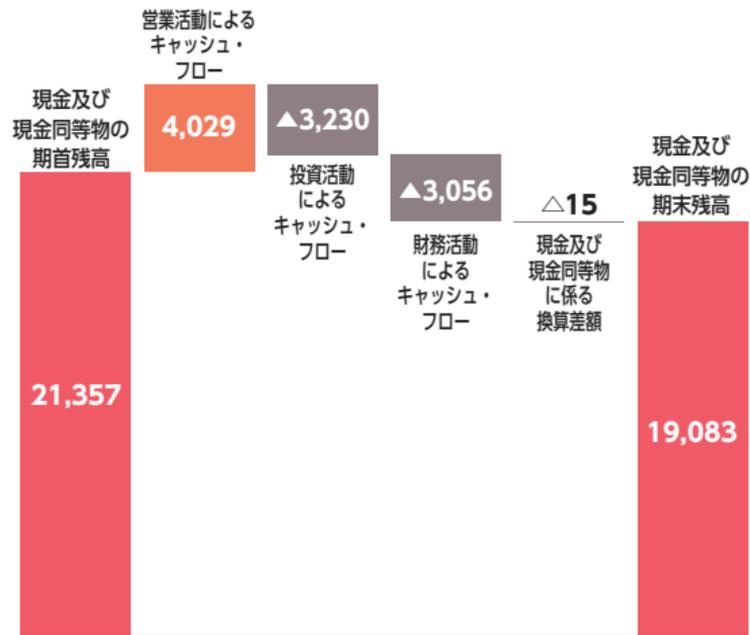
中期経営計画 2016-18 ～Value up to the Next～（2016年4月1日～2019年3月31日）の最終年度として、収益基盤の強化と企業品質の向上に向けた各種施策に継続して取り組みました。

これにより連結ベースで売上高114,301百万円、営業利益8,554百万円、経常利益8,817百万円、親会社株主に帰属する当期純利益6,284百万円となりました。

今後とも当社グループでは更なる業績の拡大に向けて引き続き諸施策に取り組んでまいります。

■ 連結財務データ (日本基準)

連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (百万円)



当連結会計年度
2018年4月1日～2019年3月31日

ポイント解説

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べて2,273百万円（10.6%）減少して、19,083百万円となりました。

・営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金収支は、4,029百万円（前年同期比△6,827百万円）となりました。これは税金等調整前当期純利益の計上等によるものです。

・投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動による資金収支は、△3,230百万円（前年同期比+852百万円）となりました。これは固定資産の取得等によるものです。

・財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による資金収支は、△3,056百万円（前年同期比△83百万円）となりました。これは配当金の支払及び長期借入金の返済等によるものです。

利益還元について

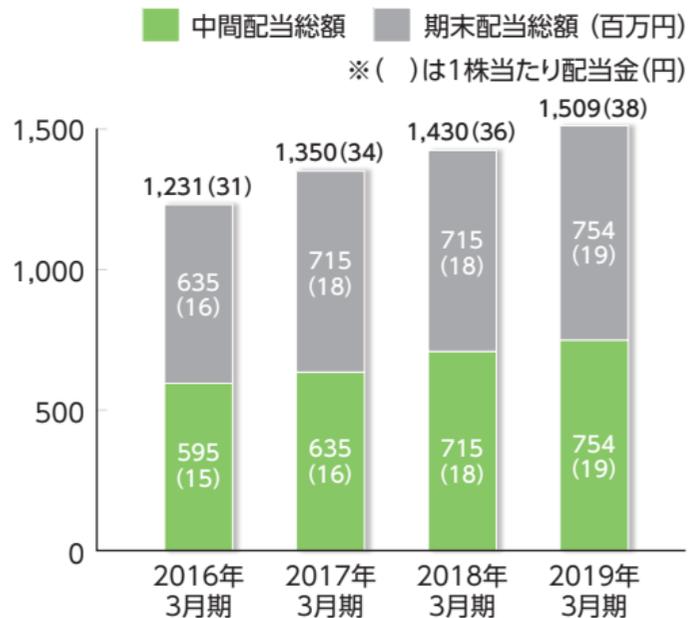
当社グループでは、株主還元を経営の最重要政策の一つと考え、業績の向上と財務体質の強化を図りながら、将来の事業展開、経済情勢等を勘案して、株主の皆様のご期待にお応えできるよう努めています。

配当について

2019年3月期の期末配当金につきましては、計画通り1株当たり19円とさせていただきます。

これにより、中間配当金を含めました年間配当金は、前期より1株当たり2円増配の38円となります。

配当総額の推移



■ 企業データ

〔会社概要〕 (2019年3月31日現在)

商号	極東開発工業株式会社 KYOKUTO KAIHATSU KOGYO CO., LTD.
設立	1955年6月1日
資本金	11,899,867,400円
従業員数	連結2,865名 単独1,038名

〔役員〕 (2019年6月26日現在)

代表取締役社長 社長執行役員	高橋和也
取締役 常務執行役員	米田卓
取締役 常務執行役員	則光健男
取締役 常務執行役員	布原達也
取締役 執行役員	堀本昇彦
取締役 執行役員	原田一彦

社外取締役	木戸洋二
社外取締役	道上明己
常勤監査役	杉本治郎
監査役	越智聡一
社外監査役	乗鞍良彦
社外監査役	藤原邦晃
常務執行役員	中島光彦
執行役員	加藤定宣
執行役員	櫻井幸晃
執行役員	細澤幸広
執行役員	木津輝一
執行役員	高濱晋一
執行役員	吉田豊

■ 株式データ (2019年3月31日現在)

[株式の状況]

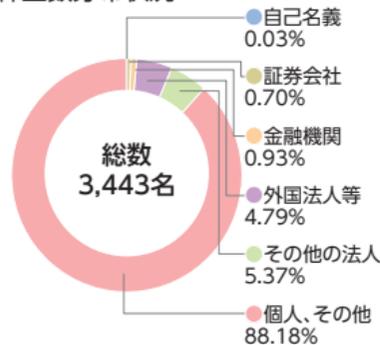
発行可能株式総数 170,950,672株
 発行済株式総数 42,737,668株
 株主数 3,443名
 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,368	5.96
株式会社三井住友銀行	1,600	4.03
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,564	3.94
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・株式会社みなと銀行退職給付信託口)	1,498	3.77
極東開発共栄会	1,256	3.16
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,012	2.55
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	900	2.27
宮原 幾男	814	2.05
GOVERNMENT OF NORWAY	780	1.96
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	780	1.96

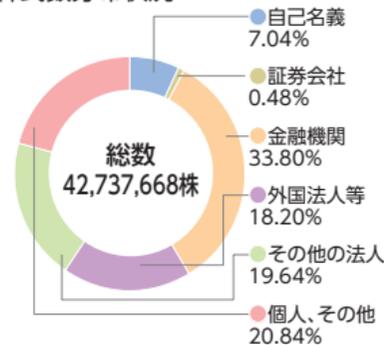
(注) 持株比率は、当社が保有する自己株式(3,010千株)を控除して計算しております。

[株式分布状況]

株主数分布状況



株式数分布状況



[株価・売買高の推移]



※ 株価は月末の終値を示しています。

[株主メモ]

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当金受領株主確定日	期末 3月31日 中間 9月30日
公告方法	電子公告 当社ホームページにて掲載 (http://www.kyokuto.com/)
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
上場取引所	東京証券取引所市場第一部

Kyokuto Kaihatsu Kogyo Co., Ltd.

<ご注意>

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

この冊子に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

〒663-8545 兵庫県西宮市甲子園口6丁目1番45号

極東開発工業株式会社 総務部

TEL:0798-66-1000

URL:<http://www.kyokuto.com/>

MAIL:soumu@kyokuto.com

社名・商品名・ロゴ等は各社の商標または登録商標です。

